

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第102回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

歯科治療に併存する精神疾患とその対応

小見山 道 先生

日本大学松戸歯学部 顎口腔機能治療学講座 教授
同付属病院 口・顔・頭の痛み外来責任者

平成29年1月24日(火)18:30～19:30

B1講義室

日常臨床において、器質的あるいは技術的には何ら問題がないと考えられるが、慢性的な痛みや審美的な改善などを執拗に求める患者を経験することがある。こういった問題の解決には、もちろん臨床における技術的な改善努力が必要である。しかしながら、術者が客観的な問題を認めないにもかかわらず数十回に及ぶ義歯の調整を要求される、また数年にわたって患者が補綴物による体の不調を訴える、など臨床的な技術論では全く改善できない症例が存在することも事実である。そして、そのことが歯科医師にとって日々の臨床に大きな影響を与えることは想像に難くない。このとき精神疾患の知識を持っているかどうかで、その対応に大きな差が生じる。今回、臨床に必要な精神疾患の基礎知識と臨床例を紹介し、実際の対応(精神科への紹介の仕方とフォローアップまで)を説明する予定である。このことで、日常臨床で悩み深い症例に対する解決の一助になれば幸甚である。

連絡先:第102回モデレーター 服部 佳功 (加齢歯科学分野)